

有限会社 ウイング

■ 常に将来を見据えた経営発展を図る



〈法人の概要〉

所在地: 〒078-2222 沼田町沼田 104 番地 3

代表者: 代表取締役 鶴野範之

構成員: 4 名(構成農家 4 戸)

役員: 4 名 常時雇用者: 2 名

設立: 平成 14 年 2 月 資本金: 900 万円

事業内容: 水稲/農作業受託

水稲 70ha、秋まき小麦 13.3ha、大豆 9.2ha、そば 9.6ha、てん菜 3.4ha、花き 0.8ha、かぼちゃ 0.5ha、緑肥 1.2ha、その他 6.5ha (H22 年)

経営面積: 114ha

農作業受託面積: 72 戸、延べ 421ha

売上高: 1 億 2,500 万円(H21 年) 交付金も含む

電話: 0164-35-2332 FAX: 0164-35-1411

URL: [http:// wing-numata.com/](http://wing-numata.com/)

E-mail: info@wing-numata.com

〈法人のあゆみ〉

平成 14 年	有限会社ウイングを法人設立(沼田町では初の複数戸法人) 構成員 4 名、経営面積 79ha でスタート
17 年	農地 8ha 購入、農地借入 2ha 拡大 米乾燥調製施設建設
18 年	従業員 1 名採用
19 年	農地 7ha 購入、従業員 1 名採用
20 年	農地 3ha 購入
21 年	従業員 1 名採用
22 年	農地借入 15ha 拡大、スイートコーンの加工を開始 現在、構成員 4 名、経営面積 114ha、農作業受託 72 戸、延べ 421ha



〈経営理念〉

「誠心誠意」

「創意工夫」

「相互の信頼」

〈設立の経緯・設立後の状況〉

- ・地域の現状として米価の低迷、高齢化や担い手不足、それに伴う遊休農地の発生が懸念された。かつて集落単元に機械利用組合が組織化されていたが、適期作業に向けた稼働調整が上手くいかない等の理由からすべて解散した。現代表は、機械や作業の共同化の方向を模索していたが、部分的な共同利用組織はつくれなかった。沼田町の 1 戸平均経営面積 18ha、1 戸でやれる面積は限られる。65 歳でリタイアする人が多いが 70~75 歳までやれないか現代表は考えた。
- ・現代表が思いを賛同する 3 戸と法人化に向けて、町と農協や農業改良普及センターの協力を得ながら、研修やデータの積み上げを行うとともに、報酬や個々の資産評価、目標認識の統一などについて話し合い、構成員の家族の同意を経て検討開始から 2 年後の平成 14 年 2 月に有限会社ウイングを構成員 4 名、資本金 900 万円で設立した。
- ・経営面積 79ha で、施設は個人所有を使用、機械は法人で導入、1 年間の運転資金が確保できないため、構成員の自己資産を担保に資金を借り入れして、スタートした。
- ・設立後 2~3 年は経営が厳しかったが、仲間と知恵を出し合い、機械、労働力を無駄なく活用できるようになり、生み出された余力は、米以外の作物生産や農作業受託に有効活用している。
- ・平成 21 年には、売上高 1 億 2,500 万円(交付金も含む)を達成。平成 22 年現在、経営面積 114ha、72 戸から融雪剤散布、耕起など延べ 421ha を農作業受託、スイートコーンのパック加工を開始した。

〈法人経営で生じた課題と対応策〉

- ・設立当初、法人としての実績がないため、1年間の運転資金の確保ができず、構成員の自己資産を担保に借り入れた。
- ・農地の賃料を当初は一律の金額としていたが、複数年の実績(生産量、品質、経費など)をもとに検討し、ほ場ごとの金額を設定した。
- ・スイートコーンのパック加工施設を自社で建設するのは難しいため、町の施設を利用した。

〈法人経営のメリット・デメリット〉

- ・新しい取り組みなどを仲間と相談できる。
- ・個人経営では望めないような経営の発展、成長が見込める。
- ・定期の休みがとれる。(夏期:週休1日・祭日休み、冬期:週休2日、祭日休み。有休休暇年10日)
- ・自分勝手な行動が制約される。

〈法人が継続するためのポイント〉

- ・ほ場ごとに土地条件や収量、品質などを把握し、ほ場にあわせた作物選定、栽培管理を行う。
- ・収支決算を部門・作物ごとに実施し、経営分析を行う。

〈これから法人化を目指す農業者へのメッセージ〉

- ・何でも言い合え、役割分担が想定できるメンバーで立ち上げる。若手の戦略や考えが必要なので若者を加える。
- ・設立前に将来計画や目標などの検討を重ね、共通認識を持つ。
- ・就業規則を明確にする。

〈特徴的な活動や取り組み〉

- ・法人の継続性を考えてあえて同年代を避けて人選し、配偶者は従事せず、構成員と従業員で従事。
- ・総務部、生産部、機械施設部の3部門構成をとっており、代表が統括。各部門ごとに、冬期間実績検討と計画を策定し、役員会で次年度計画を決定している。
- ・地域の農家が高齢化や作業機械がないため作れなかった作物に対応し、一部農作業の受託や離農跡地の受け皿となって、遊休農地を防止し、農業を衰退させないため積極的に貢献している。
- ・農産物は農協を通じ全量出荷。雪冷熱利用により米貯蔵した沼田産「雪中米」は道内外に出荷され、町内施設での販売には、当法人の米が使用されている。また、「ぬまたクリーン米生産協議会」の構成員として YES! clean 米の生産にも取り組んでいる。

〈経営目標と将来の展望〉

- ・耕地面積を増やし、機械や労働力の更なる効率化を目指す。
- ・通年営業に向け、冬期間の仕事の創出を目指す。
- ・加工品販売等による付加価値を付けた農産物の提供。
- ・従業員(構成農家子弟含む)の経営の参画。
- ・地域に貢献できる、なくてはならない企業を目指す(就職先として見てもらえる会社)。

〈視察等の受入〉

詳細については要相談。

連絡先: 0164-35-2332 (担当:代表取締役 鶴野範之)